

HOPES

ホープス セカンド

2nd

村の委託を受けて、NPO 法人もりの駅「まごころ」協議会(熊谷清会長/飯樋町)が、昨夏から健康支援事業に取り組んでいます。地区ごとに食事会や健康講座を開いたり、村に戻って暮らす世帯を訪問したり、「食」を中心に、暮らしぶりや健康状態に耳を傾け、村の支援につなぐ役割も担います。

しかも、食事会の食事は、村の女性達に作ってもらう手料理です。これには「郷土食をつ

お世話になった人の役に立ちたい

本名 洋文さん(関根・松塚)



妻の実家がある飯館村に移住。東京のホテルで仕事をしてきた経験を生かして宿泊体験館「きこり」に勤務。もりの駅「まごころ」のアドバイザーとなり、現在も NPO 法人もりの駅「まごころ」協議会理事。



協議会の訪問活動には福島大学の学生も協力しています。11月22日には、さらに熊本大学の学生や村民も交えての交流会。郷土料理や手打ちそばが食卓を彩りました。

なく意味もある」のだそうです。懐かしい味に、食事を囲む皆さんも話はずみずみ。

事業のスタートに合わせて、同協議会の仮事務所が、地域活性化センター「いちばん館」の一室に置かれました。本名さんは、活動日に、報告書の整理や収支の処理など行います。「活動に参加する方も、村の人との交流に喜びを感じています」。

そのやりがいは、「また来いよ」と声を掛けてもらうとうれしい「要望を村に伝えたり、逆に村の事業を伝えたり、1つでも2つでも、いい形でつなぎたい」と話す会員の言葉からも伝わってきます。住民参加型の事業のよさが、大いに発揮されているようです。

本名さんは昭和村の出身。都会に暮らして「何もないと思っていた故郷の素晴らしさが分かった」と言います。「村の人の故郷への思いが分かる。お世話になった分、役に立ちたい」と言葉に力を込めました。

〈編集後記〉

● 新年あけましておめでとうございます。昨年は村民の皆さんのおかげで、広報いいたてを発行することができました。ありがとうございます。今年も村民の皆さんの楽しい、嬉しい、笑顔の場面をひとつでも、ひとりでも多くお届けできるようにまっすぐ走りたいと思います。よろしくお祈りします！(木幡)

● 皆さんのご協力なしでは1ページもつけない広報紙…。感謝をしながら紙面づくりをしています。それなのに逆にやさしい言葉をかけていただいたり、励ましていただいたり。この恩をどこでお返しできるだろう…としばしば考えつめています。どうか新しい年が、皆様にとってよりよいものでありますよう。そして飯館村がますます元気になる1年でありますように。(星)



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。